たしょう

第1学年 学年だより No 5 平成23年4月25日

家庭学習について

「いっぱい勉強したいな」「かしこくなりたいな。」

どの授業にも意欲満々でのぞみ、力を発揮している子どもたちです。この時期に学習や、生活の基本を身につける事を大切に考えています。家庭学習が、生活の中で定点として位置づき、リズムが生まれてくると、根気と集中力も身についてきます。

<学校で学んだことを振り返る習慣>

学校で指示を受けながら取り組んだこと、友だちといっしょにやったことは、その場では、「なるほど」「簡単簡単」「わかった!」と思えても、家に帰ってから、再び、今日学校でわかったこと、できたこと思う一度振り返ってみると、そこでまた新たに様々な力をつける事ができます。

「先生がこんなお話ししていたな」 「〇〇さんがこんな意見を言っていたな」 これは他者とのつながりを育てます。

「なるほど!こういうことか。」「おや?これはどういうことだろう」繰り返しの中で、新しいことを見つけていける豊かさ。そして、思い起こす力は、日記や作文を綴る時の基礎になります。

家庭学習によって、「上書き保存」されるというイメージを持ってみてください。

その「上書き保存」が、さらに向上した形で保存されるか、

劣化した状態で保存されるかの分かれ道は、

「ゆっくり 正しく ていねいに」が自分一人の場面でもできるかどうか

という所にあります。

「とりあえず、あわてて、ざつにやる」だったら、

意味を持たないどころか、逆効果になってしまいます。

眠る前に覚えようとしていたことが、80%ほどしかできていなくても、朝起きてみたら100%覚えられていたという経験はありませんか?眠っている間に、脳が最終保存された情報を、懸命に記憶の引き出しにしまっていてくれるのです。眠る直前に、あわてて適当な書き順で書いた文字が、でたらめでも、それが優先的に頭の中に保存されてしまっては、残念です。

1年生の入門期なので、1日10~15分 慣れてきたら30分程度を宿題のための学習時間として、想定しています。

<えんぴつを正しくもつ>

手首の骨の完成は、中学生の頃だそうです。





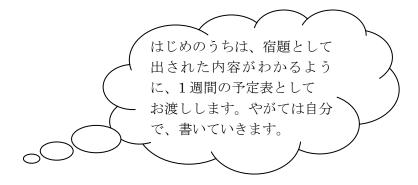




鉛筆を正しく持ち、上記のような輪をぬる運筆練習をしたとします。手首を固定し、親指と人差し指だけの回転で自在にやわらかくぬる事ができる人は、まだわずかです。ひらがなの練習や算数の学習を進め、絵の色塗りの経験などを重ねるうち、夏休み前には、なめらかに、また、自在に運筆できるようになってきます。

鉛筆の持ち方が正しくないと、回転がぎこちなくなります。たとえば、親指が人差し指にかかったように持つくせがあると、特に、反時計回りの回転がうまくいきません。

上手く持てない人は矯正のつもりで、わかっていて言われれば直せる人は、言われなくてもできるように 根気よく取り組みましょう。どうしてもうまくいかない時、補助器具や、太い三角鉛筆などが有効な事もありま す。



ここに確認のサインや印をお願いします。

◎ イラストなど よくできたねというしるしをつけてあげ てください。しるしは楽しめるように お家の方とお子さんで決めてください。

> おおきなこえだったね のぶのびとこえがだせたね など、簡単なコメントで、ほめ、 励ましてあげてください、

翌朝提出されたカー ドに、確認のサインや 印を担任が入れます。

<お願い>

*できるだけ見守り、見届けてあげて下さい。あとからもらう花マルより、その場で「じょうずにできたね」「がんばったね」と、評価される方が、効果的です。できあがったプリントには、丸をつけてあげてください。うまくできなくても、ていねいに取り組めていることが大切です。できる力がありながら、ざつに、適当に取り組んでいるときは、やり直しをさせてください。

取り組む時間やお家の人に見ていただける時間は、さまざまです。無理はしません。

できなかった時には「~でできなかったので、~(いついつに)にやります。」といったように、だからどうするのかを、自分で話せることが、大切です。

「やらなければいけないこと」と、「やりたいこと」の順を決めるとしたら、「やらなければいけないこと」を先に、「やりたいこと」は、それが終わったらにする。という方が、達成感と解放感があります。「言われて」ではなく「自分で時間ややり方を決める、自分の決めたことに責任を持つ」ということは、1年生であっても、大切なことです。

今週は、まず音読集「ひばり」から あいうえおに取り組みます。 ゆっくり、はっきり、よいしせいで、2回は読めるといいですね。おんどくカードをはった厚紙は 毎日学校と家を行き来します。登校したら、「あさのていしゅつぶつ」として提出します。